

学生相談ルームだより 2019年2月号

今月のテーマ：パーソナリティ障害② 猜疑性パーソナリティ障害

猜疑性パーソナリティ障害／妄想性パーソナリティ障害(Paranoid Personality Disorder)を持つ人の大きな特徴は、他人に対する不信と疑い深さにあります。女性よりも男性に多くみられる障害のようです。特徴として、次のような態度や言動が挙げられます。

- ☐ 小さな指摘や注意に対して過剰に反応し、自分は否定されたと思い込む。
- ☐ 相手が良心的・中立的に接しているにも関わらず自分をけなしている、陥れようとしているのだと被害的に受け取る。
- ☐ 自分が傷つけられた、軽蔑されたと感じたことに対して恨みを抱き続ける。
- ☐ 相手の自分への些細な発言に対して攻撃されたと思い、攻撃的な態度を取る。
- ☐ 自分の個人情報を知られること、プライベートな話をするのを嫌がる。
- ☐ 嫉妬深く、恋人や配偶者を根拠なしに疑ったり、所在や行動を細かく把握しようとしたりする。

もっと具体的な例えとして・・・

先生に褒められても、「もっといい成績を取れとプレッシャーをかけられた」と被害的に受け取る。

恋人の帰りが少し遅くなっただけで、「きっと浮気をしているに違いない。」と疑う。

パートナーに、自分と一緒にいるとき以外、いつ、どこで、誰と、何をしていたかなど細かく報告させる。

店員さんがおつりを間違えたことに「自分に損をさせようとした」と腹を立てる。

実験のミスを指摘され、「全人格を否定された。バカにされた。」と思い込み、長い間根に持つ。

同じ研究室の人に週末の予定を聞かれ、「お前には関係のないことだ。」と答えない。

猜疑性パーソナリティ障害の人は、被害感が非常に強いので、円滑な人間関係を築くことが難しいと言えます。態度がよそよそしい、何かにつけて議論したが、または不平不満が絶えない人という印象が強い場合もあるかもしれません。先生からの「がんばったね」を「勉強できないと思ってバカにされた」と解釈したり、落ち込んでいるとき友人から「考えすぎじゃない？ 気にしない方がいいよ。」と言われたことに対して、「否定された。」「分かってもらえなかった。」と被害的に捉えるかもしれません。

こういったタイプの人と関わっていると、自分の言い方が悪かったのではないかな？ 何か良くない態度を取ってしまったのではないかな？ と罪悪感を抱いてしまうかもしれませんが、相手の捉え方が極端である場合も多いと思います。不安になったら、他の人の意見も聞いてみてください。